

CO・OP REPORT

～生協の広報誌 全国の生協の今をお知らせします～

2026 WINTER&SPRING VOL.167

日本生活協同組合連合会

2度目のIYCを実施

国連は2012年に続き、2025年を国際協同組合年（IYC: International Year of Cooperatives）とすることを決議。短期間で2度目を迎える国際年は異例。

JCAに実行委員会を組織し、国内の協同組合セクター全体で取り組みを推進。人と人のつながりなど、協同組合が大切にしてきた価値を発信した。

さらに2025年12月15日の国連総会本会議では、持続可能な社会づくりにおける協同組合の貢献を評価し、10年ごとの国際協同組合年（IYC）の実施を決議した。次回IYCは2035年の開催となる。



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

IYCをきっかけとした交流や、各都道府県域で協同組合連携が深まった。

◆21の都道府県で実行委員会が設立され、地域レベルで協同組合が連携した取り組みを行いました。

◆連携組織が未設置の県でもIYC関連事業が行われ、2026年度以降の組織立ち上げの契機となった。

◆地域社会のつながり強化、学びと啓発、環境・福祉・防災、文化・芸術、産業・経済連携など、多岐にわたる分野で協同組合の理念を体現する多彩な取り組みが全国で展開された。

これらの活動を通じて、協同組合の価値や役割が広く社会に発信され、持続可能な地域社会づくりや次世代への継承が進められた。

◆「国際協同組合年に当たり協同組合の振興を図る決議」が5月27日の衆議院本会議、5月28日の参議院本会議で採択された。

協同組合共通の意義・役割や協同組合政策について初めて国会で確認された決議であり、画期的な内容である。

国会による決議は2012年の国際協同組合年の際には実現できず、13年越しの念願がかない協同組合の社会的価値が改めて国政レベルで確認された意義は極めて大きいものだ。



平和な世界の実現に向けて

「次世代へ被爆・戦争体験を継承する」「核兵器廃絶の世論を高める」ことを目的に、全国の生協で一致して被爆・戦後80年に向けた取り組みを行った。

◆平和宣言

日本生協連は1951年に平和宣言を策定した。この宣言をもとに、今日的な内容として、わたしたちが考える平和運動を生協らしく進め、平和な世界を築いていくことを多くの組合員とともに確認するため、「2025年 わたしたちの平和宣言」を、第75回日本生協連通常総会での特別アピールとして採択した。

◆子ども平和新聞

子どもたちが地域の戦争・被爆体験を聴き地域の戦跡をめぐりながら、新聞記者とともに平和新聞を作成し発信。多くのメディアで紹介された。

◆原爆の絵碑の設置

原爆投下直後に生き残った被爆者が描いた絵をもとにした絵碑が市民団体の協力のもと、2024年5月現在、広島市内10か所に建立されている。全国の生協からの募金をもとに20年ぶりに新しい絵碑を建設し、7月22日に除幕式を行った。

◆その他

- ・日本被団協などが呼びかける平和の集会「核兵器も戦争もない世界を求めて～記憶を受け継ぎ未来へ～」への協力・参加
- ・全国の生協の取り組みで使用する被爆・戦後80年の共通ロゴを作成 など



ヒロシマに新たに建設された11番目の絵碑

2026年度も、全国の生協・組合員とともに、

「どこよりも長く、きめ細かく寄りそって、そして支援から共創へ」のスローガンのもと、被災地に寄り添った支援活動に取り組む。

◆全国の生協による募金活動の取り組み

【2024年度】

能登半島地震発災後2023年度末～2024年度に取り組んだ募金額は、同年の9月に発生した奥能登豪雨災害の募金と合わせ、**総額約22億円にのぼった。**

- うち、約21.6億円を富山県・新潟県には能登半島地震の義援金として、石川県には能登半島地震と奥能登豪雨災害の義援金として贈った。
- 義援金以外の募金は、生協職員が市町社協の災害ボランティアセンター運営支援を行うための費用や、被災地で活動している社会福祉協議会・団体への寄付、コープいしかわの被災地に寄り添った取り組み（収穫体験・ピースコンサート等）や「能登半島地震支援活動助成」の助成金等、支援金として活用した。



2025年5月奥能登豪雨災害の義援金贈呈式

【2025年度】

「能登を笑顔に！ 応援募金」として被災地や被災者の状況や課題に合わせた復興支援に活用するため、目標5,000万円をめざし取り組んでいる。

◆令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨の知事感謝状が贈呈された

2025年12月に知事感謝状贈呈式が開催され、石川県内外の団体や自衛隊など、支援に入ったうち273団体の代表の方が参加。馳知事から一般社団法人全国コープ福祉事業連帯機構へ感謝状が手渡された。



～想いを運ぶ、物資の支援～

◆石川県内の社協と協働し、被災者にプレゼント&メッセージを贈る企画

【県南9市町の広域避難者向けのプレゼント】

中能登、奥能登地域から石川県南の9市町に広域避難されている被災者の方の見守りやサロンで活用いただくことを目的に全国の生協からのプレゼント&メッセージを届ける企画を実施した。6月には8生協が600セット、9月には9生協が1,059セットをお届けし、戸別訪問やサロン活動にご活用いただいた。

【被災10市町の仮設・在宅避難者向けの支援】

被災した中能登・奥能登地域の市町社協向けには希望生協とマッチングの機会を設け、それぞれの社協と相談しながら順次必要なものを現地にお届けしている。2026年1月現在で15生協が参加している。

今回の取り組みをきっかけに、実際に被災地に足を運んだり、サロンに直接お土産を持って行く等の活動にもつながっている。



プレゼントの写真。一つひとつに手書きのメッセージが添えられています（コープみらい）



おかやまコープ、輪島市社協にプレゼント贈呈

◆被災地でのサロン活動や炊き出しの取り組み

全国の生協がそれぞれのつながりを生かしながら、被災地でサロン活動に取り組んだり、炊き出しを行っている。発災から時間が経過する中で、一方的に物資を提供する形から、被災者の皆さんと一緒に料理を作ったり、手仕事をしたりと、住民参加、共に同じ時間を過ごす活動に変わりつつある。単独生協での取り組みもあれば、複数生協が合同で実施するなどの工夫もされている。



4生協合同（※）炊き出し。コープやまぐちの瓦そば

※コープいしかわ、コープやまぐち、生協ひろしま、コープおおい

～笑顔をつなぐ、心の支援～

◆「つながる力で能登を笑顔にアクションinいしかわ」を開催

能登半島地震や奥能登豪雨災害からの復旧・復興を支えるために企画したもので、9月に2日間で全国26都府県 45生協・団体185人の生協組合員・役職員が集まり、交流会とフィールドワークを行った。



◆つな♡のと旅企画（コープいしかわ組合員等招待企画）

能登半島のコープいしかわ組合員が、まだ時間がかかる復興の道のりの中で疲れた心と身体を癒していただき、参加者同士がつながる機会として、全国の生協が各地に招待いただくことを目的に実施している。**全国から10生協**が心のこもった旅を企画し実施している（以下実施順）。

【夏旅】

コープみらい「劇団四季のライオンキングとスカイツリーからの絶景」/生協ひろしま「ピースナイター2025能登の親子招待企画」/ユーコープ「横浜～山梨で富士山の大きさを体験しよう」

【秋旅】

ならコープ「奈良で大仏さんと鹿さんに会おう！」/コープぎふ「秋満喫！リンゴ狩りと下呂温泉・高山散策の旅」/とちぎコープ「かぬま組子細工体験と日光東照宮を歩く例幣使街道杉並木の旅」/コープえひめ「道後温泉でリフレッシュ！歴史・文化・生物多様性体験旅」

【初冬旅】

コープしが「親子で滋賀の自然と魅力を満喫旅」/コープかがわ「さぬきうどん打ち体験と金毘羅宮散策」

【春旅】

コープこうべ「兵庫県満喫リフレッシュ企画！～姫路城&神戸観光～」



とちぎコープ企画の集合写真



「マツダスタジアム」開催のピースナイター



◆能登半島地震・奥能登豪雨の被災地支援について広く発信する「CO・OPのとnote」を開設。

「つながる力で能登を笑顔に」をスローガンに被災地支援の「思い」を共有し、息の長い支援活動や現地の様子についてお知らせしていきます。ぜひご覧ください。

https://note.com/coop_chiiki

CO・OP 創立75周年にむけて



日本生協連は2026年に創立75周年を迎える。「つながって、つぎへ」をコンセプトに、「歴史の継承」「社会的発信」「感謝と対話」の3つの目的に沿って様々な企画を実施していく。

■ 75周年記念特設サイト：

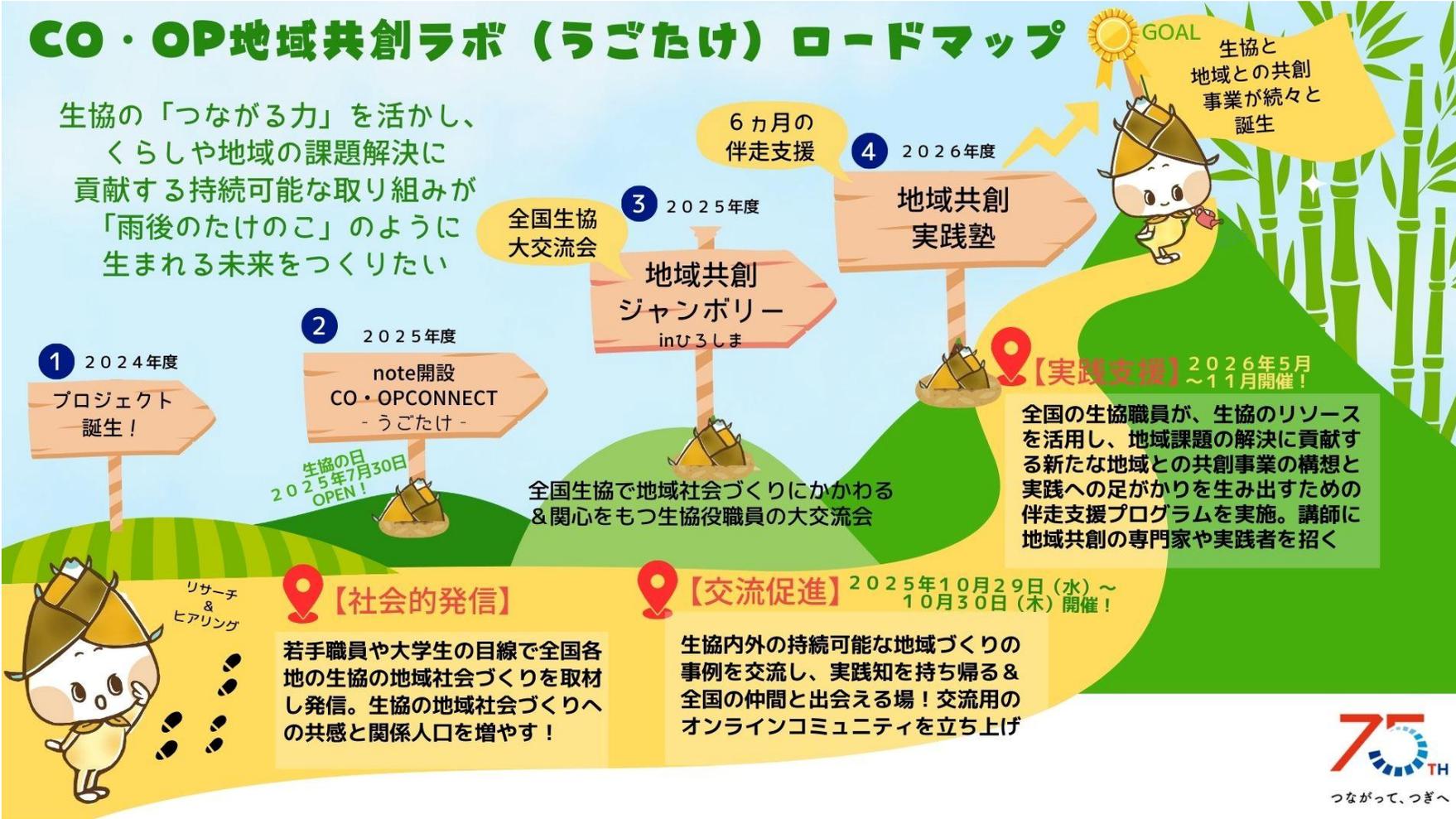
<https://jccu.coop/jccu/history/75th/>



2030年ビジョンの1つ「安心して暮らし続けられる地域社会」実現に向けて

CO・OP地域共創ラボ（うごたけ）ロードマップ

生協の「つながる力」を活かし、
くらしや地域の課題解決に
貢献する持続可能な取り組みが
「雨後のたけのこ」のように
生まれる未来をつくりたい



地域の行政や諸団体との「つながる力」を大切に、全国生協の地域社会づくりや地域課題の解決に向けた取り組みを広げる

- ① 交流促進
- ② 実践支援
- ③ 社会的発信



■ note
CO・OP CONNECT
<https://note.com/coopconnect>

社会課題に挑む若者団体（NO YOUTH NO JAPAN, KNOW NUKES TOKYO）と連携し

①**情報発信**：社会をよりよくするヒントとしての協同組合の実践を発信

②**中間支援**：日本生協連オフィススペースをハブとして、若者団体の支援 & つながりづくり



■公式サイト
<https://wecoop.jp/>



■Instagram
https://www.instagram.com/wecoop_75

①**情報発信**：Instagram投稿動画の例



②**中間支援**：オフィススペース利用の様子



生協の役割や特徴を分かりやすく伝えるため、「学研まんがでよくわかるシリーズ」として、『生協のひみつ～つながり、ささえあう、みんなの暮らし～』を制作中（2026年5月完成予定）
全国の小学校・特別支援学校、公立図書館、児童館など約24,000カ所に寄贈予定

■登場人物イメージ

キョウタ



カツヤ



イクト



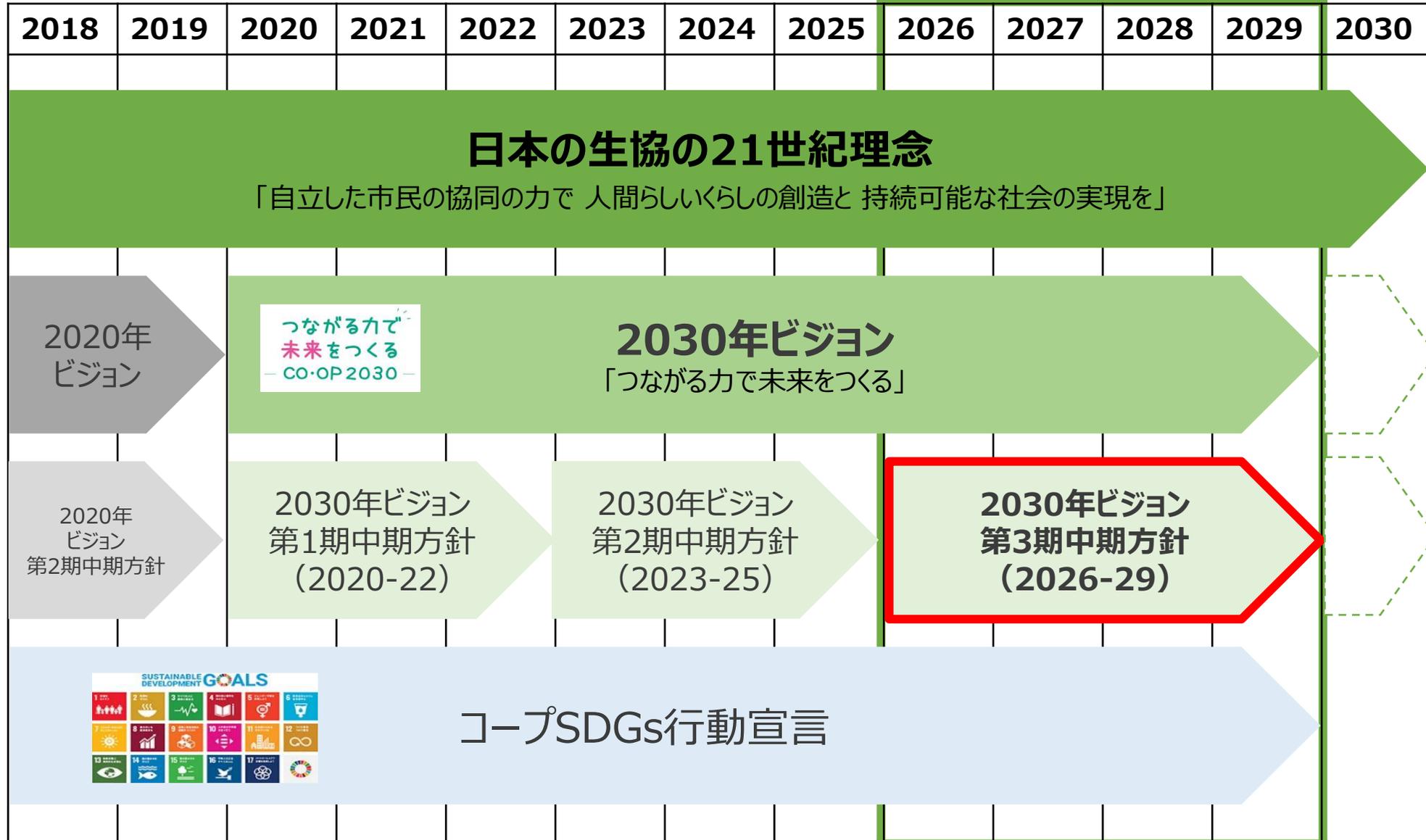
クミ



■あらすじ（予定）

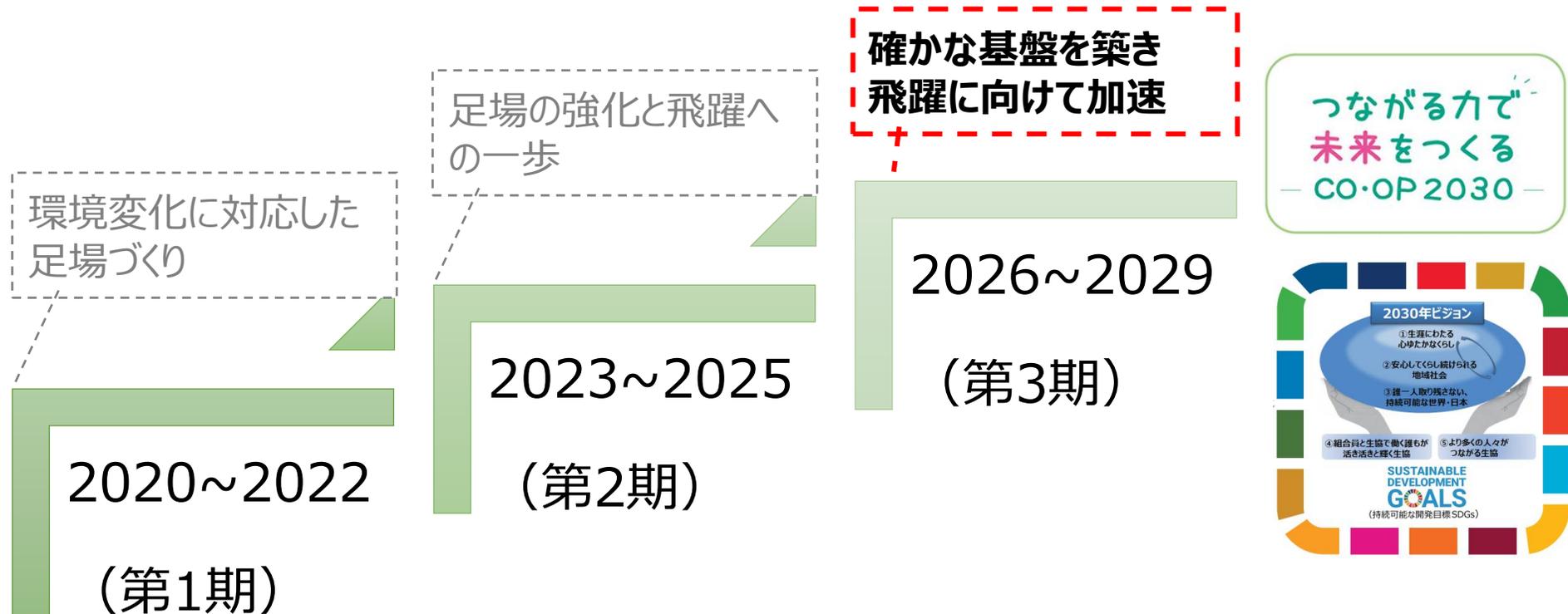
- 転校生「イクト」が学芸会の劇づくりに取り組む中で、クラスメイトと意見を出し合い、協力しながら課題を乗り越えていくようすが描かれます。
- 「イクト」たちはある地域イベントでの体験をきっかけに、人とのつながりが新たなアイデアや問題解決につながることに気づき、その経験を学校での活動にも活かします。
- さらに、年配者から生協の立ち上げに携わった話を聴き、消費者が力を合わせて願いを実現してきた歴史を知ります。また、被災地支援、平和の取り組みなどの地域を越えた活動にも触れながら、人びとがつながり、協力することがどのように社会の中で生かされているかを学んでいきます。
- 物語に加え、コラムや豆知識も充実させて、生協の役割、また食の安全や福祉・環境など多様な分野での活動についてもわかりやすく紹介していきます。

CO-OP 2030年ビジョン第3期中期方針（2026-29）の位置づけ



co-op 2030年ビジョン第3期中期方針（2026-29）の基調

- 競争の激化、物価高騰、人手不足等、ビジョン実現に向けて険しい壁が立ちはだかっている。これらの壁を全国の生協で力を合わせて乗り越えると同時に、2030年以降の生協と社会のあり方も見据えて、果敢な挑戦が求められている。
- 第2期までの成果を着実に引き継ぎつつ、それぞれの地域でのお役立ちをさらに広げるために生協の総合力を高め、ビジョンに掲げた「世帯加入率過半数」の実現を追求。
- 第3期は、残された課題解決を早急に進めつつ、大きく変化する組合員の暮らしを見つめなおし、未来を見据え、確かな基盤を築き飛躍に向けて加速をする期間と位置付ける。



- ・ 飛躍にむけた3つの基盤「事業」「地域」「人・組織」に、「未来への使命」を加えた4点としている。
- ・ 「未来への使命」・・・2030年以降の未来を見通して、世界的な視野も持ちつつ、息長く取り組まなくてはならない課題群。

2030年ビジョン

協同の力で
未来への使命を果たす

厳しい環境を乗り越え、生涯にわたる心ゆたかなくらしを支える事業構築

事業の基盤

持続可能な地域づくりと課題解決への役割発揮

地域の基盤

未来を切り拓く
組織づくり

人的基盤

厳しい環境を乗り越え、生協のシェアを再び上げるため購買事業構築

- ・縮小均衡に陥ることなく、加入拡大・利用定着と、既存組合員による利用の引き上げの両課題を進めていく。
- ・一人ひとりへのお役立ちを目指しながら、特に「シニア」「子育て」「若年」層へのアプローチとMDを強化。

	多様な総合力の発揮	品揃え・商品力
利用を広げる	生協とのあらゆる接点が入りや参加の入口となる 総合力の発揮	加入動機・利用定着につながる魅力的な品揃えと商品力の強化
利用を深堀する	多様な事業の併用を促しデータに基づき一人ひとりの利用点数と頻度を引き上げる	品揃えと商品力強化・プロモーションの両面からさらにお役立ちを高めていく

<利用を広げる>

● 生協とのあらゆる接点が加入や参加の入口となる 総合力の発揮

- ・店舗・宅配など組合員視点での事業連携の強化
- ・広報・イベント・行政施策など多様な接点とつながる参加・加入
- ・組合員からの紹介や資料請求者への確実な加入促進
- ・共済シナジーで妊娠時点での加入促進
- ・高齢になって加入した方へのサポートの充実

● 加入動機・利用定着につながる 魅力的な品揃えと商品力の強化

- ・お試しから加入、加入から定着につながる魅力的な品揃え
- ・利用定着を促進するプロモーションの展開
- ・若年層、単身世帯にもお役立ちするMD強化
- ・若い世代の加入拡大につながる商品軸の広報展開



<利用を深堀する>

● 多様な事業の併用を促し データに基づき 一人ひとりの利用（頻度と点数）を引き上げる

- ・併用率のさらなる向上、生協で展開する多様な事業間の相乗効果を高める
- ・一人ひとりの組合員との接点の情報を丁寧に読み解くデータドリブン経営への挑戦
- ・ぬくもりのあるコミュニケーションを通じて生協の多様な事業・活動をお知らせし、地域において体験価値の総和を増やしていく

● 品揃えと商品力強化・プロモーションの両面から さらにお役立ちを高めていく

- ・組合員のくらしに寄り添った、商品・サービスの開発および品揃えの充実
- ・価格訴求の全国プロモーション、人気商品を中心とした価値訴求の展開
- ・「声に応える」事業への参加を通じて、生協の理念とビジョンの理解を広げる

